

# J A 石川県青壮年部協議会 ポリシーブック2019

～石川県若手農業者における政策提言～



J A石川県青壮年部協議会  
ポリシーブック2019

目次

1. 営農活動・農業経営力の強化について
2. 青壮年部活動の活性化について
3. 自己改革の取組について

## 1. 営農活動・農業経営力の強化について

### (1) ねらい

国による米需給調整や直接支払交付金が廃止され大きな節目の平成 30 年度以降、稲作農家は経営に対する不安要素が多く高齢化も進む中、担い手農家や新規就農者に期待を寄せるが、2, 3 年後に離農する若者が石川県でも多くなると予想される。

農業は自然災害が大きいほど、甚大な被害を受けやすい。一度被害を受けると、復旧までに数年かかり、費用もかかるので復旧規模も縮小傾向である。

また、農家戸数の減少が原因による 1 戸当たりの耕地面積の増加、規模集約に伴う労働力確保の難しさから、効率的な栽培体型が確立されている作物への偏りが生じている。

これら現状について、改善を目指す。

### (2) 実施していること

生産コスト削減など自助努力の継続。

### (3) 現状の課題

- ・国が生産数量目標の配分を行わない為、需要バランスと米価下落のリスクが増大する。
- ・転作作物の交付金単価が安く価格も不安定。生産意欲につながらない。
- ・燃料高騰もあり、冬季に栽培しても費用対効果を考えると取り組みにくい。
- ・JA 直売所において、プロ農家と家庭菜園農家の色分けがされていない。
- ・栽培の経験もなく、TAC として営農指導していることに疑問を感じる。

### (4) 課題を解決するためにすべきこと、J A や行政に要望したいこと

#### ○個人・青壮年部として取り組むこと

- ・盟友は積極的に研修や講習会など参加し、農業政策への改善提言を行う。
- ・地域の農業・農産物を積極的に PR に努める。
- ・食育にも積極的に実施し、地産地消にも心がける。

#### ○JA グループへ要望すること

- ・TAC・営農指導員の質を上げる、金融や共済担当者等にも JA 職員としての農業知識は最低限身に付ける。
- ・石川県のブランドを高める農産物の開発や普及活動。
- ・農業生産負担軽減になるような設備や資材の開発や栽培の確立に努める。
- ・新規就農者や後継者への、営農経営が持続出来るような環境整備。

#### ○行政へ要請すること

- ・石川県の基幹産業である農業を大事にしようという PR をすること。
- ・石川県版 GAP 等、消費者には更なる認知度を高めること。
- ・地域間格差を考慮した上で、農産物生産に関する助成金を手厚くし、新たな農産物の開発をすること。
- ・I ターンや U ターンによる就農者が継続して営農経営が出来るような環境作り。
- ・今後加速する ITC 農業への確立に向けた助成制度を充実させること。
- ・農業経営をスムーズかつ低負担で継承するための施策を求めること。

## 2. 青壮年部活動の活性化について

### (1) ねらい

盟友の高齢化、新規盟友の不足が叫ばれている中、若手農業者同士の「交流の場」「意見発信の場」としての青壮年部活動の役割は大きい。このような少子高齢化の状況であっても、地域・文化を守りながら、豊かな社会を築き、次世代に引き継いでいく必要がある。

ポリシーブックを基軸にした活動を推進することによって、盟友数の拡大を図りながら、青壮年部盟友の英知と行動力の結集、仲間との相互研鑽、時代を担うリーダー育成を通じて、青壮年部組織のさらなる飛躍を目指す。

### (2) 実施していること

#### ○各単組取組事業

- ・一支店一協同活動への青壮年部の協力。
- ・小学校への出前授業。(例 小学三年生へのトマトの授業。)
- ・幼稚園への出前授業。(例 バケツ苗の栽培)
- ・地元の神社の行事に青壮年部のお店を出店することで地元へ貢献。
- ・JA 広報誌に青壮年部のページを設けてもらった上での、活動紹介。
- ・(地元の要請による) 清掃活動等の参加。

#### ○県下統一事業

- ・休耕地の有効活用として、青年部がひまわりを栽培し活動を広く知ってもらおう。  
(石川絆再耕プロジェクト)

#### ○その他

- ・一般消費者向けに畑を貸して、野菜等を栽培してもらい、作物を直売所に出店している。
- ・中央会との連携により小学生と米作りをしている。

### (3) 現状の課題

#### ○各単組の場合

- ・年々盟友が減少(高齢や年齢制限)し准組合員の盟友が占める中、活動内容が限られてくる。
- ・事務局が総務部署担当の時の対応は十分だったが、事務局が営農部署担当になると対応も手薄になった。
- ・青壮年部の行事について、意味のある事をしているのに、周りから「ただ行事をこなしている」と思われている。
- ・青壮年部としての活動をしているが、JA の活動の一部になっている。

#### ○県青協の場合

- ・各地区、地元の活動には参加するが、県青協の活動への参加が少ない。
- ・活動が伝わっていない、発信する手段がない
- ・能登地区からの活動実績発表がない。

### (4) 課題を解決するためにすべきこと、JA や行政に要望したいこと

#### ○青壮年部組織の活性化

##### ①新規盟友獲得に向けて

新規盟友に対して分かりやすいメリットの確立(例えば、お買い上げごとにポイント2倍

や家族 会員を取り入れ、JA の事業にも有効な特典サービス。)

②青壮年部活動のPRについて

情報発信、YouTube の活用 (見て貰えるような動画編集の講習、QR コード活用)

③他団体との連携

食品団体 (飲食業) と青壮年部生産者との交流会の実施(販路拡大)、各地域の青年団との交流

④活動資金の獲得について

新規盟友獲得の予算行使について自由度の検討 (まずは新規盟友獲得を優先する)

○県青協事業の活性化

①県下統一事業 (石川絆再耕プロジェクト)

「ひまわり」栽培を今後も継続する為に、一般消費者への活動PR が出来る場所にて栽培する。

また、統一の看板を作成し、開花時期には動画の撮影をする。石川県農林漁業まつり会場にてPR 動画を放映する。

②能登地区の青壮年部との交流

視察研修や会議を能登地区で開催し交流を深める。

○JA に要望

①青壮年部の活動自体、JA 役職員が知らないなので、情報発信を今一度考えてもらえるよう要望する。

②職員も積極的に農業理解促進活動を実施するよう要望する。

○行政に要望

①青壮年部の活動に市や県職員の参加を要望する。

### 3. 自己改革の取組について

#### (1) ねらい

JA グループは自主・自立の協同組合であるため、組合員の意思に基づいた自己改革の実現に取り組む。今後の JA グループの組織のあり方について、これからの JA 経営を担う我々のような若い担い手農業者が自らの責任として考え、JA への積極的な経営参画を通じて、青壮年部の意見を JA 事業に反映していく。ついでには、地域に根差した組織としての意義・役割を認識しながら「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」につなげていく。

#### (2) 実施していること

JA 自己改革を各 JA は取り組んでいるが、各 JA 青壮年部の全ての活動は JA 自己改革の実践の一つだと認識し活動を展開している。

#### (3) 現状の課題

##### ○JA について

- ・盟友の中には JA の業務自体よく分からない（銀行だと思っている）人がいる。
- ・事務局が総務部署にいた場合は対応が十分だったが、事務局が営農部署にいた場合は、対応も手薄になった。
- ・青壮年部活動に対する情報発信が遅い。
- ・伝わっていない、伝え方が上手ではない。
- ・組合員アンケートの趣旨がいまいちわからない。（結果で満足したらそこで終わりなのか、改革する為にアンケートしているのか。）

##### ○JA 組織について

- ・JA の上層部の青壮年部活動への理解が足りない人が見受けられる。

#### (4) 課題を解決するためにすべきこと、JA や行政に要望したいこと

##### ○情報発信

- ・統一感のある看板、のぼりを作成し、県下一斉に行っていることをアピールする。
- ・女性部と一緒に活動を実施する。
- ・商工会青年部、農業青年グループと連携をとって活動を行う。
- ・行政のイベントに積極的に参加する。

##### ○情報発信・政策提言

- ・青壮年部が、JA 役員と意見交換する機会を増やす。  
その際に、自単組版（石川県版）ポリシーブックを活用すればなお良い。  
（JA への提言）
- ・春の石川県農林水産部長への表敬訪問の時に、積極的に活動内容を紹介する。  
その際に、自単組版（石川県版）ポリシーブックを活用すればなお良い。  
（行政への提言）

○組織活動について (JA・行政に要望)

- ・新たな活動を実施する場合や行政と一体となった活動を実施する場合、計画段階から盟友を会議に参加出来るようお願いしたい。
- ・青壮年部が実施している「農業理解促進活動」に職員や議員さんの参加をお願いしたい。

